

委員会要旨

日 時	令和6年6月19日(水) 午後2時から午後5時まで
場 所	軽井沢町中央公民館 講義室
件 名	第8回軽井沢町庁舎改築周辺整備事業推進委員会
出席者 委 員	池田靖史委員、佐藤絵理委員、小林久史委員、大町哲也委員、小林美智子委員、外川樹美代委員、田村恵美委員、佐藤公貴委員、小林広幸委員、大工原亮子委員、小林里恵委員、佐藤一郎委員、本城慎之介委員、島崎直也委員、福原未来委員、柴崎雅寿委員、野村有里委員、船曳鴻紅委員、堀池玲子委員、堀内勉委員、山崎元委員、上田公三委員
町	小池副町長
事務局	新庁舎周辺整備課 土赤課長、篠澤室長、佐藤生涯学習課 外川補佐、新海館長
欠席	篠原幸雄委員、饗場晴雄委員
1. 開 会	
2. 議 題	
(1) 基本方針の見直しについての議論	
ア DXの推進状況について	4月から町のDXの推進体制を整備。(課及び係を新設し、小池副町長をCDO(チーフ・デジタル・オフィサー)に、ソフトバンクから光谷氏をCDO補佐官として配置) 議会定例会6月会議にてDX推進宣言を提案し、DX推進をより進めていく旨を、町長から決意表明して組織横断する形で、全庁を挙げてDXを推進していき、今後は、7月に各課等へ業務課題のヒアリングを実施し、課題を整理し、優先順位をつけた上で、業務プロセス洗い出す、BPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)を実施し、業務の効率化を図っていく。これらの活動を踏まえて、DX推進に向けた全体方針を固め、令和7年3月に推進計画を策定し、その後令和7年度からは、引き続き優先順位をつけながらBPRを進めるとともに、窓口申請のペーパーレス化やマイナンバー活用など具体的な取り組みを進めていく。
【主な議論】	・業務プロセスの洗い出しはどのようになされるのか。 ⇒各課にヒアリングシートを配付し、各課の今の業務の状態等を確認していく。
イ 庁舎・公民館について(改修案の検討)	山下三浦JVより、公民館の躯体調査(中性化調査)の結果が良好であった旨が報告され、その結果、A案「分棟案」・B案「一体化案」・C案「公民館改修案」について具体的な資料を提示してそれぞれの案のメリット・デメリット等を説明後、委員会内で議論。 特に改修案については、コスト指数が一番低だけでなく、エンボディドカーボン(建設・廃棄時のCO2排出量)も抑えられ、環境への負荷も抑えることができる。
【主な議論】	・公民館を改修した場合にどのぐらいの期間使えない時期があるのか。 ⇒幅はあるが、1年から2年の間だと想定している。 ・公民館の検討が庁舎に比べて追いついていない感覚があるが、着工時期をずらす考えはあるか。 ⇒あくまで同時整備としていく考えのため、引き続き公民館の検討をしっかりと行っていく。 ・老人福祉センターの建物としての今後の見通しはあるのか。 ⇒公民館改修案の場合の一時的な代替施設として使うことは可能だと考えている。ただし、これまでのように3つの施設として今後も管理していくことは、コスト面でも難しいためなるべくまとめていきたい考えである。 ・オープンスペースが南側に広くとられているが、北側にとることも検討できるものか。

⇒国道 18 号からの顔づくりという点で南側を意識しているが、両側にダブルエントランスという考えも今後検討できる。

- ・環境への負荷が少ないというのは大きなメリットである。
- ・人の流れや動きも大きな判断材料となるのでそれを見える化して検討していくことも大切である。

(2) 対話の報告について

step 2 の庁舎・公民館の基本方針に関する「おしゃべり会」について、ワーキンググループの委員より説明後、「基本方針」への盛り込みの検討を推奨する参加者の声を発表した後に、議論を行った。「おしゃべり会」では延べ 148 名の参加があり充実した場であった。グラフィックファシリテーターという手法を用いて、参加者の想いを絵や線で描き、議論を活性化させ、参加者の満足度もかなり高かった。

【主な議論】

- ・町民の方は人との交流を求めている、そういった施設を望んでいるのかなという感想を受けた。
- ・公民館に対する期待が大きいと感じた。庁舎・公民館が一体になる方がこの幅広い公民館の期待というものをいろんな形で受け止める施設になるのではないか。
- ・コストをかければ、施設をつくれば良いが、公民館では何ができて何ができないのか、公民館に必要不可欠とされる部分について議論する必要があると思った。もっと議論を深めた方が良い。
- ・役場と公民館の距離感がとても大事で、公民館で活動をされている方々は自分たちの活動を見てもらいたいと思っているのだと思う。

(3) 基本方針（たたき台）について

基本方針の「たたき台」を「変更の余地があるものである」という意味で推進委員会に提示、今後行うパブリックコメントなどの意見と合わせて、次回の委員会で検討する。主に先ほど議論した建て方（ABC案）や事業費の考え方を説明後、委員と議論を行った。

【主な議論】

- ・建築単価の概算根拠について、今後の物価上昇率の見通しや、寒冷地である特性への考慮などを想定し、後から費用が膨らまないようにきちんと想定すべき。

⇒今後検討する。

- ・例えば、40 億 50 億で作った場合の規模なども示すことも大事ではないか。
- ・今基本方針で示すべきは、「いくらかかるか」ではなく「いくら準備すべきか」ということだと考える。
- ・「町長選挙での民意」と「町の考えが合っていない」と感じている。もっと広く確かな民意を拾う必要があると感じた。

(4) その他

ア 道路拡幅事業について

町道鶴溜線及び国道 18 号の道路改良工事について、図面を用いて説明

イ 庁舎改築周辺整備アドバイザーについて

議会 6 月会議においてアドバイザーの補正を計上。町側の立場に立った、より専門的で具体的な助言や設計内容の確認を補助する役割を担っていただくということで、「1 級建築士の資格を持つ方」、「公共事業に携わった経験のある方」などの条件を設け、議決後、速やかに公募を実施。

(2) その他

- ・一部本日の内容を組み込んだ上で、「基本方針（たたき台）」についてパブリックコメントを実施（6/24～7/23）
- ・次回の委員会 7/26（金）14：00 から中央公民館 大講堂

3. 閉会

